

9 授業研究を活用する

授業研究のねらい

授業改善のためのテーマを決め、その解決のために手立てを考え、単元指導計画（学習指導案）を作成し、事前に検討し、授業を参観し合い、事後等に研究会を開催する一連の取組が授業研究です。学習指導に対する意見等を参観者から得られる研究授業は、授業研究の検証を目的として行うものであり、授業づくりに関する課題等を明らかにして、その後の指導改善に役立てることができる貴重な機会です。常日頃から指導の振り返りを行なながら授業改善に努めますが、「研究授業」という形を取ることによって、教員同士で協力しながら客観的に問題点の原因を探ったり、相互に改善方法の提案を試みたりすることが可能となります。

☆教材の工夫がしたい

「研究授業のために、教材を工夫して作成したいけれど、学校ではつくれるのだろうか…」

そんな声にお応えして、総合教育センターの学校支援室には、「教材工房」があります。

ここには、教材作成に役立つ機器（大判プリンタ、高速スキャナ等）がそろっています。

所員が教材づくりの相談に乗ることもできます。

→ 参考資料4

研究授業の準備

研究授業を行う際には、最初に設定した授業改善のテーマに基づき、授業づくりの課題を明確にすることが必要です。そして、課題解決のためにどのような手立てを取るのか、どのような工夫をするのかを考えます。単元指導計画（学習指導案）を作成したり、教材・教具を工夫したりといった様々な教材研究をすることいますが、その全てが授業研究につながり、自身の力になります。

研究授業の留意点

研究授業では、授業のポイントを参観者にあらかじめ伝えておくことが必要です。授業のねらい、単元（題材）目標や単元（題材）構想、授業づくりの課題と解決に向けた工夫点等を明確に示すことで、適切な助言がもらえます。また、記録メモの作成やビデオ撮影等によって、自分の授業を客観的に振り返ることができ、授業改善につながります。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

ビデオカメラを用いた授業研究

教室の前方から、ビデオカメラやタブレット端末を用いて生徒の学習の取組を録画しておき、授業研究としてその動画を見合うことは大変効果的です。

表情や手の動きから、生徒の学びを見取ることができます。首をかしげたとき、何か言葉を発したとき、それが何を意味するのかを検討することで、生徒にとっての授業の意味が明確になります。→ 1章－9

校内授業研究の進め方（例）

組織的協力体制で実施

授業テーマを明確にする

- 育てたい生徒像は何かを明確にする。
- 勤務校の研究主題や自己課題を踏まえたより具体的なテーマを設定する。

所属校の学校教育目標を確認します。

単元（題材）の構想を確認する

- 生徒に身に付けさせたい力は何かを確認する。
- 評価規準を設定する。
- 目標実現につながる学習活動を組み立てる。

学習指導案を作成する

- 授業の展開の仕方を確認する。
- 観点の評価規準を確認する。
- 単元（題材）の流れを構想する。
- 1単位時間の学習活動を明確にする。
- 研究との関わりが見えるように工夫する。

教員個人でなく教科や同一科目担当者で組織的に授業づくりを行うことにつながります。

参観のポイントを確認する

- 学習活動の工夫点を示す。
- 課題や助言が欲しい点を示す。
- 研究授業までに、検討してほしいことや助言してほしいこと等を伝えておく。

授業の記録をとる

研究授業の実施

- 発問が課題ならば発問をメモしてもらう。
- 立つ位置や生徒とのコミュニケーションに課題があれば、教室全体を撮影して動きを確認する。
- 生徒の学びの様子がつかめなければ生徒の表情を撮影する。

☆研究協議会の方法

授業の振り返りを問題解決型であるワークショップ形式にするとよいでしょう。ワークショップとは、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で討議したり創作したりする学びや創造のスタイルです。参加者一人ひとりが互いの意見を出し、全員で改善の方向を導き出すので、学校に「同僚性」を築くこともできます。

研究協議会を実施する

- 授業研究のねらいを確認する。
- 研究授業の記録を参考に検討する。
- 目的に応じた手法を用いて研究協議会を実施する。

授業研究をまとめる

- 研究協議会の内容を各自の日常実践にどういかすかということについて記録する。

【参考資料】総合教育センター刊行物

- ・「実感につなげよう！今、求められる授業改善Ver.2」2020年
- ・「カリキュラム・マネジメントを促進する協議の工夫」2020年

→総合教育センター刊行物のダウンロードは、P122へ